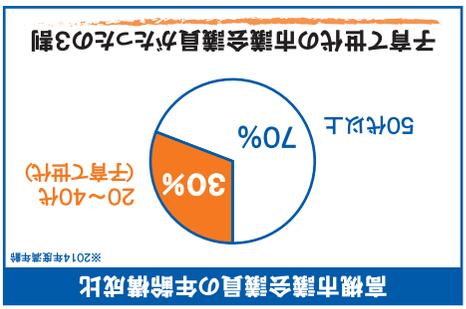


# なぜ子供たちに負担がまわされてしまうのか。その原因を解説します。

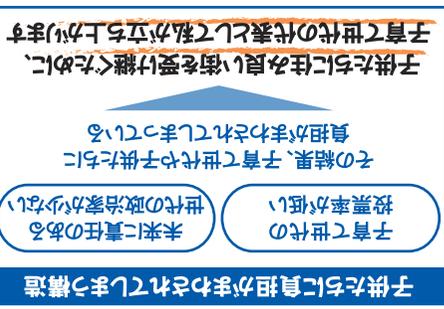
## 子育て世代や子供たちの意見は、政治に反映されにくい構造になっています。

私と同じ子育て世代は子供を産み育てても高い世代に対する政策を重視しがちです。また、**子育て世代の政治家が少なく**、また、**子育て世代の政治家が少ないことも原因の一つ**です。本来であれば、子供を産み育て、今後何十年間も遊べる居場所がなく、教師が一人ひとりの子供にしっかり向き合える教育体制にもなっていないかもしれません。このように、子育て世代や子供たちにとって厳しい環境になっているのは、**そもそも子育て世代の人口が少ないことに加え、投票率が低い**ために、**政治に意見が反映されにくい構造になっている**からです。政治家たちは口では「未来のため」と言いますが、やはり人口が多く投票率



## 将来世代の声を代弁し続ける、未来に責任のある世代の政治家が必要です。

多くの政治家たちは選挙のときには美では何も変わりません。だからこそ、**これから、地元高槻で子供を産み育てている** **私自身が、子育て世代の代表として立ち上がることを決意しました。**子供たちだけ良いことを言ったのに、その後はどうなったんだろう...」と思われたために、未来に負担を先送る政治に真面目から立ち向かいます。このようなことが多々あるはずですが、選挙の前だけ現れてキレイごとを言うだけの「政治屋」ではなく、**高槻の未来に責任のある世代から、本気で子育て・教育政策に取り組む成果を出す政治家を生み出していかねばなりません。**しかし、この現状をただ憂いているだけ



キレイごとではない、次世代のための政策の実現のために。

たけなかけん  
**竹中健**  
(27歳・無所属)

阿武山小・中学校  
春日丘高校  
立命館大学法学部

1987年7月生まれ(27歳)。大学卒業後、IT企業に入社。その後、政策コンサルティング会社にて全国の市長・議員の政策形成に携わる。2013年、西宮市議会議員(現 西宮市長)秘書に就任し、政治の現場で研鑽を積む。現在は「一部の利益を優先し、将来にツケを遺している政治」に危機感を感じ、地元である高槻に戻り、「住み良い街・高槻」の実現のために市政に挑戦中。趣味はサッカー(中高サッカー部)。実家の近くで、妻と二人暮らし。

「子供たちの明るい笑顔のために。」

政治家たちは口ではそのようなことを言っていますが、どこまで本気で子育て世代や子供の課題に向き合っているのでしょうか。

- ✓ 待機児童の問題も実際はまだ解消されていない。
- ✓ 子育てへの不安を持つ子育て世代への支援施策が不十分。
- ✓ 子供たちが放課後に安心して遊べる居場所がない。
- ✓ 教師が一人ひとりの子供に向き合える教育体制が整っていない。

このような状況で、「子供たちの明るい笑顔」がつくれているとは到底言えません。

今回のチラシでご紹介する子育て・教育に関する政策は、先進的な自治体ではすでに取り組みが始まっているものばかりですが、高槻市ではまだ実現には至っていません。

お子さんやお孫さんがおられる方や「子供たちの環境が少しでもよくなってほしい」と思われる方は、ぜひチラシの裏面最後までご覧ください。

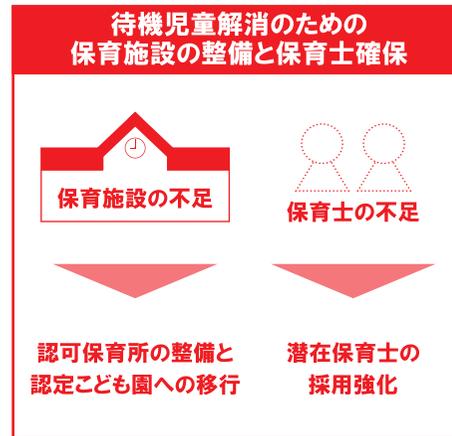
# 子育て

## 子供たちの未来のためにも、そして高槻の未来のためにも、「本気の子育て施策」に取り組まなければなりません。

子育て世代の他市流出と高齢者増加により、高槻市は近隣市の中でも特に少子高齢化が進んでおり、子供が減っていく傾向にあります。高槻の未来のためにも子育て世代の流入や出生数増加を促進することは、最も重要度かつ優先度の高い政策なのです。子育て世代や子供たちの声が届きにくい政治の世界だからこそ、未来に責任のある世代の私が「本気の子育て施策」の実現のために行動し続けます。

### 増加する待機児童の解消のために、保育施設の整備と保育士の確保が必要です。

高槻市は平成 26 年 6 月に「待機児童ゼロ」を公表していますが、年度中に発生した待機児童など数字に反映されない児童もあり、実際にはいまだ多くの待機児童が存在しています。さらに、女性の社会進出の流れから今後も待機児童は増えていく傾向にあります。**待機児童発生の原因**としては、「**保育施設が足りていないこと**」と「**保育士の確保ができていないこと**」があげられます。待機児童を解消するためには、まず**認可保育所の整備と、公立・私立幼稚園の認定こども園（保育と教育の両機能を持つ保育施設）への移行を市が後押しすべき**です。さらに、不足する保育士確保のために、給与などの処遇改善に取り組み、**潜在保育士（現在は離職している保育士資格取得者）の採用を強化する必要があります。**



### 子育てを頑張る家庭のために、「子育て支援施策」の充実をはかるべきです。

子育てにおける不安を解消する子育て支援施策を実現することで、子育て世代流入につなげるべきです。高槻市のアンケートでは、子育て支援施策に求めることの第1位は「**経済的支援の充実**」です。そこで、子育て世代に住み続けてもらうために、以前高槻市で実施していた「**子育て応援券**」の再開と拡充をするべきだと考えています。これは無料で就学前児童の一時預かり保育や予防接種を受けられるというものです。さらに、保育料助成などの**多子世帯支援の更なる充実も検討すべき**です。2人以上の出産を希望している家庭を支援することで出生数増加につながるはずですが、**市の財源は限られていますが、高槻市の未来を見据えるのであれば、優先的に子育て支援施策の充実に予算を回すべきだと考えています。**



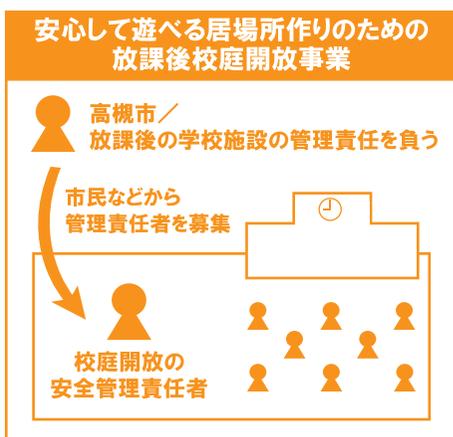
※参照：平成 25 年度 高槻市民意識調査 (Web 調査)

## 良好な教育環境を用意することが、公教育の本来やるべきこと。子供たちのために教育現場の改革を早急に行わなければなりません。

子供がのびのび育ち、充実した教育を受けられる良好な教育環境を用意することが、公教育の本来やるべきことです。しかし、現在の公教育の現場では、子供たちにそうした環境を十分に与えられていません。子供たちが「子供」でいられる時間は限られています。だからこそ、早急に教育現場の改革に取り組むべきです。

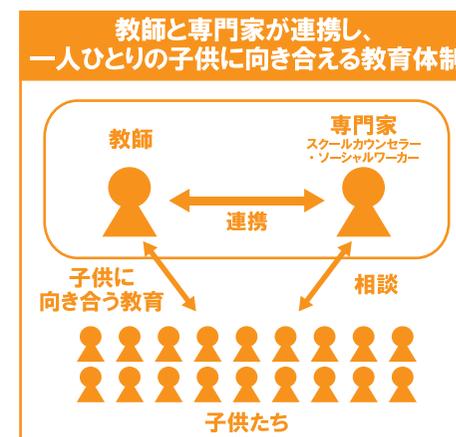
# 教育

### 子供たちが安心して遊べる居場所作りとして、「放課後校庭開故事業」を実現すべきです。



昨今、事件の凶悪化などにより、子供たちだけで安心して遊べる環境がなくなってきました。下校時刻以降の校庭利用は基本的には認められていませんし、近所の公園には「ボール遊び禁止」等の看板が立てかけられています。子供たちが自由に安心して遊べる居場所、**そんな私たちが子供の頃には当たり前だった環境を子供たちに返してあげたい**のです。他市（箕面市など）では、市が責任を持ち安全管理を行うことで、すでに放課後校庭開放を実現しています。学校の校庭は子供たちだけの自由な遊び場であったはずですが。それを大人の都合で奪ってしまっているわけがありません。子供たちが自由に安心して遊べる居場所作りのために、**市内全小学校での放課後校庭開故事業を実現すべき**です。

### 一人ひとりの子供に向き合う教育のために、教育現場体制の見直し・改革が必要です。



子供に関わる問題が専門的で複雑かつ多様化しているために、現場だけではなかなか解決に結びつけられず、時間ばかり費やしています。また、教師は本来の仕事である教育以外の事務仕事に時間がとられてしまっています。**そのため、教師が一人ひとりの子供に向き合う教育に専念できません。**まず、子供と向き合う時間確保のために、増加する事務仕事の内容を見直す必要があります。さらに、**市内の小学校に派遣されている専門相談員（スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー）をいま以上に増員し、教師と連携して子供たちの悩みや問題に対応できる体制を構築すべき**です。これらの施策に取り組むことで、教師が一人ひとりの子供に向き合える教育体制を作り、教育環境の品質向上につなげるべきです。

#### topic-1 チラシのバックナンバーを配達します！

第1号チラシは市内の全世帯にポストインにてお届けしましたが、「まだうちには届いてないよ」「知人にも配りたい」という方がおられましたら、直接ご自宅までお届けにあがりますので、お気軽にご連絡ください！



#### topic-2 「竹中の貸し出し」大好評受付中！

第1号チラシで告知しました、直接お伺いして意見交換をさせていただく「竹中の貸し出し」ですが、主婦の方からご高齢の方まで、すでに多くの方とお会いしてお話させていただいております。どんな内容でも、たとえお一人様でも、お気軽にご連絡ください！いつでもどこへでも伺います！

その他今回のチラシに関するご意見・ご感想など、どんな内容でもお気軽にご連絡ください！

☎ 070-5508-9243

✉ mail@takenakaken.net

🌐 http://takenakaken.net

📱 [ID] takenakaken

📍 〒569-1037 高槻市東城山町2-12-102 発行：竹中健とあしたの高槻を考える会